

日本人 x 外国人 多文化共生のまちづくりを伝える

ヨークピア

270号
2024年4月



- Contents -

よこはま日本語学習支援センターの取組み

横浜市通訳ボランティア派遣制度

国際機関実務体験プログラム2023年度春期 YOKE参加者の紹介

横浜市多文化共生総合相談センター 相談の現場から

Yokohama NIHONGO Support Center

横浜市域における地域日本語教育の総合的な体制づくりを進める拠点 よこはま日本語学習支援センターの取組み 横浜×日本語×多文化共生

1. よこはま日本語学習支援センターとは よこはま日本語学習支援センター Yokohama NIHONGO Support Center

横浜市の外国人人口は 11 万人を超え（2024 年 1 月末現在）、さらなる外国人の受入拡大が見込まれています。そこで、横浜市域における地域日本語教育の総合的な体制づくりを進めるための拠点として、2020 年 8 月「よこはま日本語学習支援センター」を横浜市国際交流協会 (YOKE) 内に開設しました。地域日本語教育コーディネーターを YOKE に配置し、関係機関・団体との連携を図りながら、横浜の地域特性を踏まえた日本語学習支援を通じ、多文化共生のまちづくりを進めています。（横浜市委託事業）

2. 地域日本語教育の推進・連携のための取組み

関係機関・団体などとのつながりを大切にしながら、地域日本語教室への支援や地域日本語教育推進モデル地域（2023 年度は磯子区・瀬谷区）での取組みを行っています。*2023 年度 取組より一部抜粋

相談対応

「日本語の勉強がしたい」
「地域で新しい教室を立ち上げたい」…
日本語に関する相談窓口を設け、地域のみなさんの課題解決に向けて伴走しています。

地域日本語教室等への個別訪問事業
まちなほんご伴走隊
日本語学習・支援に関する相談窓口
YOKE にほんご相談室



広報・情報提供

ホームページを情報発信の中心と位置づけ、日本語に関する情報を発信しています。また、地域日本語教室等へのアンケートを定期的に行うなど、ニーズを把握、タイムリーな情報を発信できるよう工夫しています。

日本語に関するさまざまな情報を発信
よこはま日本語学習支援センター HP
インタビューや取組み紹介なども
情報冊子「にほんごコミュニケーション」

横浜市内にある地域日本語教室を紹介
日本語・学習支援 教室データベース（横浜）

取組みの共有 ネットワークづくり

研究会や連絡会などを通して、関係団体のネットワークづくりを進めています。また、地域での取組みや課題を共有し、ニーズに応じた日本語教育プログラムを検討しています。

コミュニケーションをテーマに、発表や意見交換
まちなほんごプラットフォーム

地域日本語教育推進モデル地域
各区での連絡会、日本語ボランティア講座等

くわしくは、よこはま日本語学習支援センターホームページをご覧ください。

よこはま日本語学習支援センター



「おやこで にほんご ヨガ at スマイル・ポート」



「日本語ボランティア入門講座
～横浜で始めよう！日本語ボランティア～」



ウクライナ避難民対象
「にほんごクラス “ドゥルースイ” みらいコース」

3. 支援者研修、日本語教室の開催など

外国人も含めた日本語学習支援者の育成、企業や地域と連携した日本語教室の開催など、子どもから大人まで切れ目のない地域日本語教育（学習支援）の実現を目指し、さまざまなプログラムを実施しました。2023 年度に実施したプログラムのうち、3 つをピックアップし紹介します。



事業紹介 1 日本語ボランティア入門講座

日本語ボランティアとして活動する際の心構えや基礎知識などを学ぶ講座です。どなたでも/外国の方向けの 2 つの講座を開催し、すでに活動しているボランティアと交流する機会も設けました。

一般向け講座担当者コメント

地域に暮らす外国の方と互いに知り合い、学び合う日本語ボランティア活動の実践を具体的に考え、活動案をつくり、講座の中で実践を試みました。

外国の方向け講座担当者コメント

学習経験者ならではの「強み」を見つけながら、支援の仕方を考えました。講座修了後も実践経験の場をつくり、活動の次のステップに進めるようサポートしました。

参考 URL ① →



<https://yokohama-nihongo.com/ynsc/20230804>

参考 URL ② →



<https://yokohama-nihongo.com/ynsc/20230731>

事業紹介 2 初期日本語教室 はじめての横浜～日本語で話そう～

日本語をはじめて勉強する人、横浜に来たばかりの人を対象とした日本語教室です。「日本語学習」「生活情報」「交流」の 3 つの要素を盛り込み、日常生活に役立つ教室としました。

担当者コメント

旬な横浜情報を入れながら楽しく学んだことで、地域への理解が深まり、学習者どうしの交流も生まれました。みなさんが笑顔で参加することを大切にしました。

受講者コメント

とてもいい日本語の授業でした。横浜や日本に関するたくさんの情報を得ることができました。このようなクラスが続くことを願っています。

参考 URL →



https://yokohama-nihongo.com/learn_japanese/20230925-2 他

事業紹介 3 親子日本語教室「おやこで にほんご ヨガ at スマイル・ポート」 共催：西区地域子育て支援拠点 スマイル・ポート

親子でヨガを楽しみながら、日本での子育てに関する日本語の習得や情報提供を行う講座です。外国の方に地域子育て支援拠点を知ってもらうきっかけにもなりました。

担当者コメント

外国人親子が楽しめる内容を講師と共に考え、交流を深めながら、とても温かい雰囲気の中で講座ができました。引き続き地域の方々と連携していきたいです。

講師コメント

今後も講座などを通してつながりをつくり、地域のみなさんの「子育ての第一歩」を支える場所として、サポートの輪を広げていきたいです。

参考 URL →



https://yokohama-nihongo.com/learn_japanese/20230911

私たちは、地域で暮らす外国人が日本語でのコミュニケーションを通して相互理解を図り、社会の一員として地域で活躍していくことを目指しています。これを実現するため、今後も地域の関係機関などと連携して各地域の特徴や日本語を母語としない人の学習ニーズを把握し、「学習者に寄り添う学習支援の場」を地域に広げたいと考えています。

多文化共生

よこはま で にほんご を べんきょうする



横浜市通訳ボランティア派遣制度とは

横浜市通訳ボランティア派遣制度は、主に横浜市内の区役所の窓口、市立小中学校、保育所、福祉施設などに通訳ボランティアの派遣を行うことにより、日本語の困難な外国人市民が日常生活を送るために必要な手続きや相談などを安心して行えるようにするとともに、公共機関等の窓口業務の円滑化支援を目的として行っています。

この制度は、発足から約30年が経過しました。年間の派遣数は約2000件（2022年度実績）と、大規模な事業展開となっています。当事業は、8か所の市内国際交流ラウンジ等との共同運営となっています。各ラウンジは地域の学校や区役所等からの依頼を受け、ボランティア登録とマッチング業務を行っています。

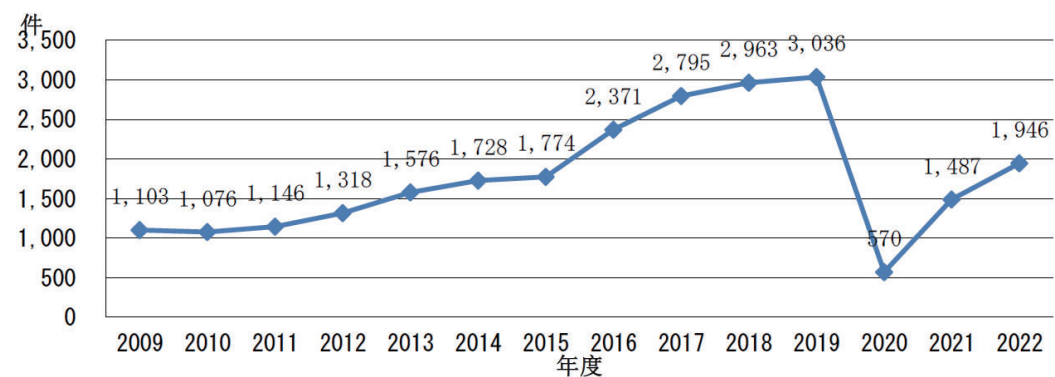


↑区役所での通訳の様子



↑横浜市通訳ボランティア派遣制度 案内

派遣件数（2009～2022年度）



↑通訳ボランティア派遣件数（2009年度～2022年度）

制度発足の背景

制度発足の背景には、1990年の入管法の改正以降、定住化する外国人の増加に伴う国籍の多様化により、区役所の窓口を訪れる外国人が、これまで区職員で対応できていた英語に限らず、さまざまな言語を話すことになったことに起因しています。横浜で暮らす外国人が、日本人と同等の行政サービスを受けられるようにするためには、区役所窓口で多言語の対応が必要です。そのために、言語が堪能な市民にボランティア通訳として登録してもらい、YOKEまたは国際交流ラウンジが通訳を必要としている区役所からの依頼を受け、ボランティアを派遣し、行政職員と外国人の通訳を担ってもらう仕組みが制度のスタートとなりました。

ニーズに応じた対応とその後の変化

外国人が横浜で生活していくなかで、子どもが生まれ、学校に通うこととなります。小中学校での保護者面談で、教員と保護者がコミュニケーションをとるために通訳が必要なことから、1996年度には小中学校への派遣を開始しました。そして現在、総派遣数の約半数が小中学校への派遣となっています。特に中学校3年生の進学に関する三者面談や相談では、保護者にも複雑な日本の受験制度を理解してもらう必要があります。その仕組みや手続きについての説明を正しく通訳するためには、ボランティア自身の理解も不可欠となります。

当初は区役所での手続きや、学校や保育園の面談での通訳で始まった制度ですが、定住化が進むに連れ、相談内容も深刻化することもあり、児童相談所、区役所生活支援課窓口、療育センター等、複雑な相談をする場面での派遣依頼も増えてきました。それに伴い、2008年度には専門通訳ボランティア派遣制度も加わり、一定の審査を通った専門通訳ボランティアの登録と特定の機関への派遣を開始しました。現在、全体の約20%が専門通訳ボランティアの派遣となっています。

「通訳」以外の役割

さまざまな場面で市民のボランティアに協力してもらっている背景には、市民に単なる言葉の通訳をしてもらうだけではなく、役所での手続きや学校での面談等での通訳活動を通し、横浜に住んでいる外国人がどのような手続きで困っているのか、どのような相談ごとがあるのかを知ってもらう機会となり、多文化共生社会の理解者を増やすことにつながればとの願いがあります。

多くのボランティアは、登録している言語が使用されている国・地域での生活経験がある方や、その出身者です。言葉ができるだけではなく、その国・地域の文化や国民性を理解していることが、スムーズな通訳につながると考えています。

よりよい通訳のために

YOKEでは、登録ボランティアを対象とした、制度の基本的な理解を目的とした初級者向けのものから、一定のテーマに絞った研修会等を定期的に行い、制度の理解を深めてもらうと同時に、普段ひとりで活動をしているボランティア同士の意見交換や情報共有の機会としています。

※通訳ボランティアには、活動の謝金として、学校への派遣は1回1800円、区役所等への派遣は2000円をお支払いしています。



↑学校での通訳をテーマとした研修会での様子（2023年度）



課題とこれから

この制度は、現在約750名のボランティアの登録者に支えられています。そのうち一番登録が多い言語は英語で、約400名となっています。派遣依頼の増加傾向にある言語は、ベトナム語、タガログ語、ネパール語、カンボジア語等ですが、登録者が極めて少ない理由で依頼に応えられていないことが多くなってきています。

また、通訳を必要とする場面も多岐に渡り、どこまでの範囲をこの制度で担うべきかなど、整理が必要となってきています。現場のニーズに応えながらも、ボランティアに過度な負担をかけないような形を模索しながら、より良い事業展開を目指しています。

参考



<https://www.yokeweb.com/tsuyaku/>
「行政窓口などへの多言語サポーターの派遣・紹介」



<https://www.yokeweb.com/toroku/>
「通訳ボランティアに登録する」



フェリス学院大学 国際交流学部国際交流学科 1年 秋山 ことね

- ① 日本に住む外国人の方々の支援に興味があり、このプログラムに参加しました。YOKE で地域の方々と交流し実際にどのような支援が行われているのか、また、どのような課題があるのか学びたいです。
- ② 国際交流ラウンジの学習支援に関心を持ちました。子どもたちと学習支援を通してたくさん交流したいです。
- ③ 私は国際協力の仕事をしてみたいと考えています。具体的に何をやるかはまだはっきりしていませんが、YOKE の多文化共生、地域連携事業から学んだことを大学の授業や将来の仕事でも活かしていきたいと思っています。



フェリス学院大学 国際交流学部国際交流学科 3年 石川 芽生

- ① 大学の授業で在日外国人について学んだのがきっかけです。その授業で異国での子育ての大変さや経済面での大変さを知り、より深く学び直接この目で現場を見てみたいと思い YOKE を希望しました。
- ② 災害時のサポートです。通信環境が整っていない中でいかに外国人をサポートするのか関心があります。
- ③ 私は他者に寄り添える人間になりたいです。他者つまりは自分とは違う境遇の人に寄り添うということは簡単なことではありませんが、YOKE での経験を通じて相手を大事にするためにはどうすれば良いか学びたいです。

国際機関 実務体験プログラム 2023 年度春期 YOKE 参加者の紹介

国際機関実務体験プログラムは、YOKE と横浜国際協力センターに入居している国際機関等及び市内大学が連携し、国際機関等や YOKE での実務体験を通じ、国際協力や多文化共生のまちづくり等について学生に考える機会を提供する、「誰もが安心して豊かに暮らすことのできる世界」を目指す若者の育成を図るプログラムです。

市内各国際機関等で 45 時間～ 100 時間の実務を行います。平成 16(2004)年度開始以来、200 名を超える学生がこのプログラムに参加し、毎年充実した研修が展開されています。

2023 年度春期では、3 名の学生のみなさんが YOKE でプログラムに参加しました。参加した学生のみなさんを紹介いたします！

< 学生のみなさんへの質問 >

- ① 国際機関実務体験プログラムの参加を希望した理由を教えてください。
- ② 今回、関心を持った YOKE の事業を教えてください。
- ③ YOKE での経験を将来の自分の目標にどのようにつなげたいですか？



國學院大学 観光まちづくり学部観光まちづくり学科 2年 渡邊 南斗

- ① 私は日本で働く外国人のサポートをする仕事につきたいと考えています。YOKE の行っている事業に携わらせていただき、将来の目標に向けて自分にどのような力が必要なのか具体的に考えたいと思い参加しました。
- ② 国際ラウンジ連携事業、地域日本語教育の総合的な体系づくり推進事業、多言語情報発信事業
- ③ YOKE でさまざまな拠点に携わっている方や在住外国人の方との交流を通して、「もっとこうの方が良い」というような自分にしか出せない意見を持てるようになりたいです。

横浜市多文化共生総合相談センター 相談の現場から



子どもを幼稚園と保育園どちらに入園させたらよいか悩んでいます。保育園には色々な種類があるとも聞きました。くわしく教えてほしいのですが…。



横浜市が公開している 2 つの動画を紹介しましょう。「ほいくえん・ようちえんってなあに？」では、幼稚園と保育園の違いを説明しています。こちらは、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、ネパール語で見られます。

「教えて！コンシェルジュさん 保育園の申請」では、横浜市の保育園の申請についてのポイントを 10 分でわかりやすく解説しています。こちらは日本語のみです。



「ほいくえん・ようちえんってなあに？」



「教えて！コンシェルジュさん 保育園の申請」

区役所の子ども家庭支援課にいる「保育・教育コンシェルジュ」に相談することもできます。言葉が通じることが心配な場合には、区役所に頼って横浜市国際交流協会、または最寄りの国際交流ラウンジに、横浜市通訳ボランティアの派遣を申し込んでもらってください。

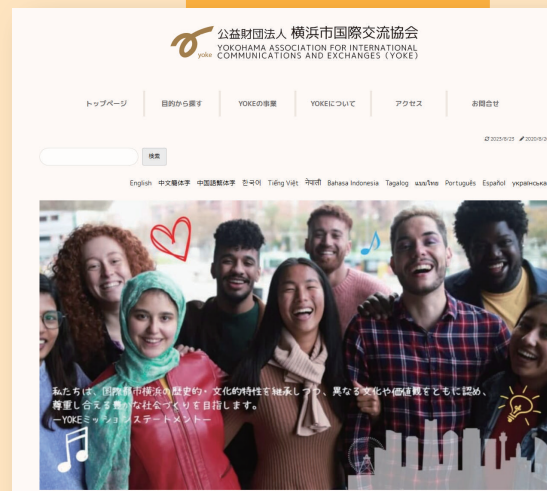
横浜市多文化共生総合相談センターでは、外国人のみなさんからの質問に 12 言語で対応しています。

お気軽にご連絡ください。電話 045-222-1209 <https://www.yokoinfo.jp/>



YOKE ウェブサイトをご覧ください！

<https://www.yokeweb.com/>



横浜市国際交流協会 (YOKE) のウェブサイトでは、YOKE が開催する研修会やイベントの案内を随時掲載しています。日本語学習支援に関する情報なども掲載していますので、ぜひご覧ください。

寄付のお願い

みなさまから寄せられた寄付金が、在住外国人の生活をサポートする資金となります。みなさまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

寄付金額 1,000 円 / 1 口以上 (金額は寄付者の方の任意です)。

税制面での優遇措置 -YOKE は公益財団法人の認定を受けています。法人または個人が一定額以上の寄付をした場合、税法上の優遇措置を受けることができます。詳細はお問合せください。

振込先<郵便振替> 口座番号 00250-3-74434 加入者名 公益財団法人 横浜市国際交流協会 ※手数料不要の振替用紙を送付します。問合せ先までご請求ください。

寄付に関する問合せ 公益財団法人 横浜市国際交流協会 総務課 電話番号 045-222-1170

寄付の詳細 <https://www.yokeweb.com/about/#toc18>





yoke

公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター 5 階

TEL 045-222-1171（代表） FAX 045-222-1187

E-mail yoke@yoke.or.jp

URL <https://www.yokeweb.com>